

## Y05c 和歌山大学での星空案内人養成講座、ねらいと2年の報告

富田晃彦、尾久土正己 (和歌山大)

和歌山大学においても、星空案内人養成講座が2007年度より始まった。星空案内人養成講座が全国様々な地域で行われる中、和歌山大学では、大学生教育の一環としてこの養成講座を位置づけている点が特徴である。大学生に「星空の案内ができる」付加価値を付け、社会人になった際に役立ててもらうことを期待することが我々の目的の第一である。ここでは、2007,2008年度の試みを紹介する。なお、和歌山大学には理学部や天文学に関係した学科はない(教育学部、経済学部、システム工学部、2008年度から観光学部発足)。

2007年度は教養の授業「宇宙科学」(富田と、もう一人別の教員の共同担当)を利用し、学部や学年に関係なく、和歌山大学の学生に講義を行った。大学生は一般に資格が好きだろうが、どのくらいの学生が実際に星空案内人の資格にくらいつくのか、見る目的を持っていた。「正」案内人資格は敷居が高いので、実際には「準」案内人資格を目指した。3つの学部から603人の受講登録者があり、準案内人資格の講義部分の合格者が110人であった。このうち実技指導を希望した者が27人で、最終的に25人が合格して星空準案内人となった。一般学生にとって、星空案内人はさすがに敷居が高いようである。

2008年度は、星空案内人を目指す学生を募り、少人数養成の形に移行した。観光学部での「観光と宇宙」の授業(尾久土担当)、教育学部での自主演習(富田、尾久土担当)で養成を続けている。観光学部では、宇宙も観光資源であるとの観点から学生教育に利用し、教育学部では、教員養成への付加価値の観点から学生教育に利用している。また2008年度は前年度に星空準案内人となった学生から、大学の催し「観月会」の世話をしたり、独自に観望会を開いたりする者が現れ、早速効果が出ている。星空案内人養成講座を一般の大学生教育への活用として検討している大学関係者の参考になると考えている。